



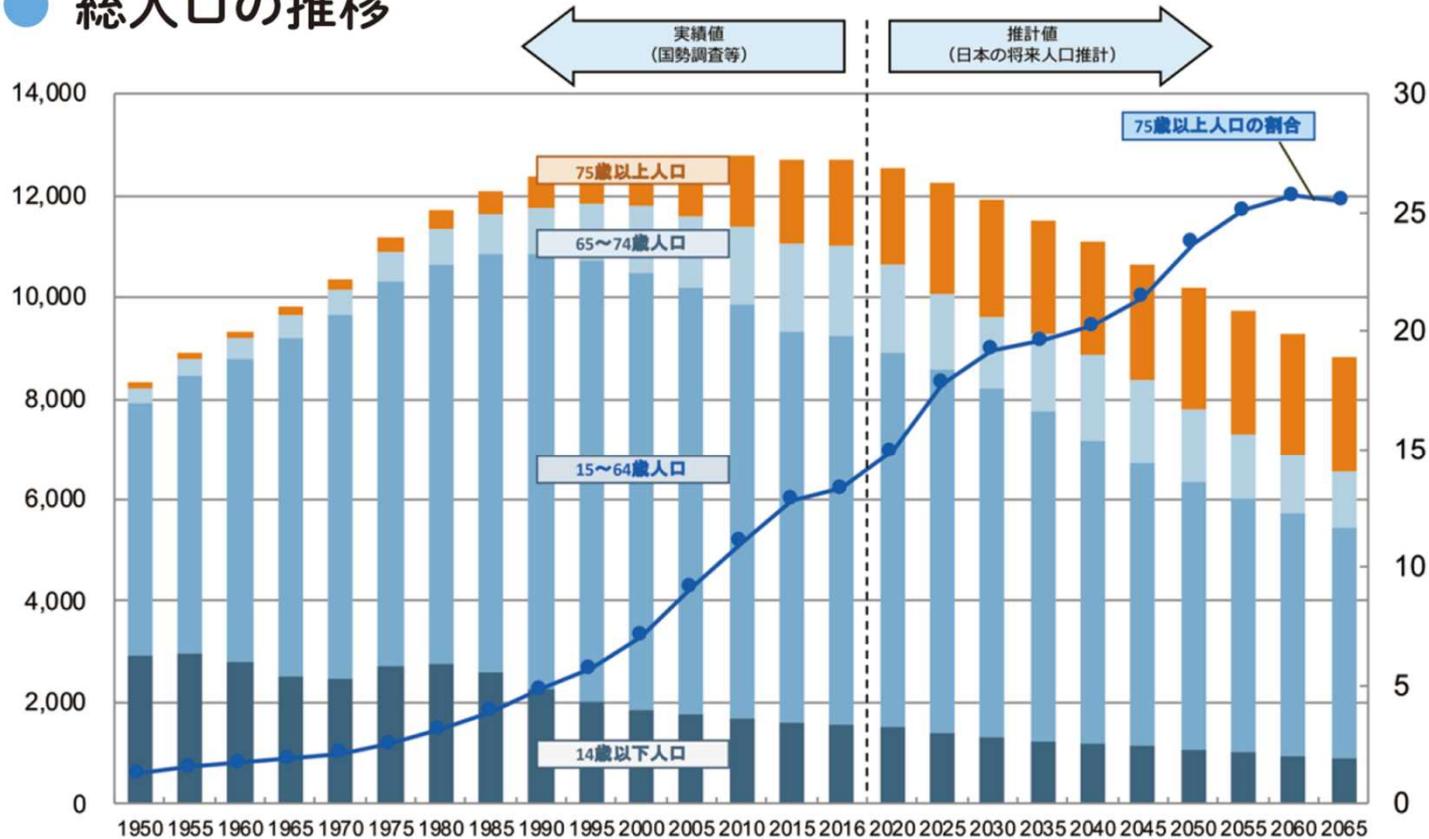
資料 1

介護現場革新会議の目的



全国の状況

● 総人口の推移



○日本の人口はここ数年間
減少傾向

○2014年の総人口は約
1億2708万人で、前の
年と比べると約21万5千
人減少

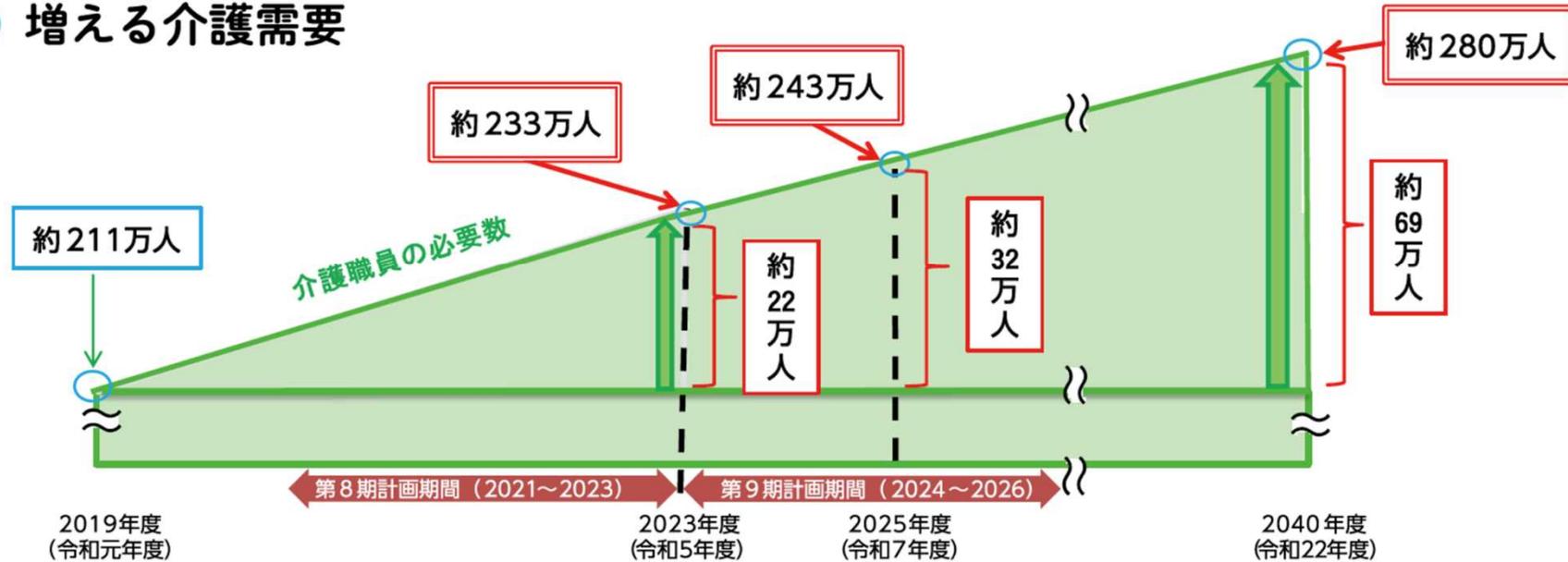
○特に、15歳から64歳
の生産年齢人口の減少が続
いており、2040年にか
けて減少傾向が更に大き
くなる見込み

(出所) 2016年までは総務省統計局「国勢調査」および「人口推計」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年4月推計)中位推計」を基に作成

出典) 厚生労働省「介護サービス事業(施設サービス分)における生産性向上ガイドライン」

全国の状況

● 増える介護需要



出典) 第8期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について (令和3年7月9日厚生労働省社会・援護局) 厚生労働省ホームページ <https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/000804129.pdf>

介護分野での人材不足を解決するためには、
人材確保や、**介護現場の負担軽減・生産性向上**に向けた取組が必要

介護分野において生産性向上に取り組む意義

2025年には団塊の世代が全員75歳以上となり、更にその先の2040年にかけて85歳以上の人口が急増することが予想されており、介護サービスの需要は今後、更に高まることが見込まれる。

一方で、生産年齢人口は急速に減少することが見込まれており、人材確保は既に全産業的に喫緊の大きな課題となっている。

介護分野の生産性向上の取組については、介護サービスの質の維持・向上が見込まれるとともに、介護現場の職員の負担軽減等にもつながるものであり、加えて、魅力向上・介護人材確保等による経営の安定化も図られる「三方良し」の取組であることを踏まえれば、介護サービス事業所自らが積極的に推進すべきものとも考えられる。

介護現場における「生産性向上」とは

一般的に「生産性」とは製造業等で用いられるOutput（成果）をInput（投入量）で除した「労働生産性」を指す。

一方、介護分野における「生産性」を考える場合には、介護分野の人が人にケアを提供するといった特性（製造業等との違い）を十分に考慮する必要がある。介護現場の生産性向上は「利用者に質の高いケアを届ける」という介護現場の価値を重視し、介護サービスの生産性向上を「介護の価値を高めること」と定義している。

人手不足の中でも介護サービスの質の維持・向上を実現するためには、介護サービス事業所の課題を明確にし、業務改善活動等に継続的に取り組む必要がある。そして、これらを通じて職員の働きがいや仕事に対する満足度を高め、その結果として更なるサービスの質の向上につながる。この一連の流れが介護分野における「生産性向上」に取り組む目的である。

介護現場革新会議と各関係団体との連携イメージ

介護現場革新会議

【取組内容】

地域における介護現場の課題に即した対応方針や計画、**介護生産性向上総合相談センターの運営方針等**の取りまとめ

【構成メンバー】

介護事業者団体、職能団体、県社会福祉協議会、福祉用具供給協会、学識経験者等

方針提示

介護生産性向上総合相談センター

【運営方式】業務委託（プロポーザルによる随意契約）

相談

相談受付（人材不足、労務改善など）

伴走支援・有識者派遣

介護ロボット・ICT
展示・試用貸出

支援・情報提供

研修会の開催
（伴走支援事例の横展開）

他の機関との連携

連携

支援

（独）福祉医療機構

（独）中小企業基盤整備機構

よろず支援拠点

ハローワーク

介護労働安定センター

福祉人材センター

シルバー人材センター

介護事業者

介護現場革新会議における検討事項等

1 介護事業所の生産性向上に関すること

- それぞれの立場での問題意識を共有した上で、介護現場における生産性向上の取組を推進するための方策について検討する。

2 県の施策への意見収集

- 県が実施している事業に対する意見を収集し、今後の事業構築の参考とする。

3 介護事業所と関係機関の連携強化

- 会議の委員間で情報交換を行い、介護現場における最新の問題意識を共有する。